

公益財団法人

宮城県国際化協会

MIYAGI INTERNATIONAL ASSOCIATION

倶楽部

MIA

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

## ポストコロナの 東北大学国際祭り



シャミル ムハロー アサヌル フスナ さん  
インドネシア共和国 ジャカルタ出身  
東北大学留学生協会(TUFSA)会長

—いつ日本へ来ましたか。

2019年9月23日に来日しました。中学生のころから周りには海外に行く友人が多かったので、自分も海外で学びたいと夢を抱いていました。いくつか留学試験を受けた中で、国費留学の試験に受かった日本を選び、東北大学の理学部化学科で学ぶことになりました。日本に着いて羽田空港でモノレールに乗ったとき、アニメみたいだと思いました。大学周辺のサラサラの雪に感動し、初めての冬をとでも楽しく過ごしたのもよく覚えています。

—どのように日本語を勉強したのですか。

来日するまで日本語は勉強しておらず、最初の1年間はフラストレーションを感じました。大学で留学生向けの日本語クラスを選択して、ひらがなカタカナから始め、文法や漢字など約一年半勉強しました。それでも今みたいに流暢に話せるようになったわけではありません。日本人の彼女が出来てから上達しました。彼女とは遠距離恋愛のため毎日オンラインで話しています。日本語が話せるようになったお陰で、大学事務局でアルバイトしたり、特定技能外国人や技能実習生の通訳をするようになりました。

—仙台で暮らして4年ほどだそうです、どんなことがありましたか。

来日して半年後に新型コロナウイルス感染症の影響を受けオンライン授業になりました。同じ頃、アパートで一人暮らしを始めて、人との繋がりがすっかり薄くなりました。

その後、厳しい入国制限が続く中、国費留学生だけ入国できる期間に同窓の後輩2人が東北大に進学してきたので、広めのアパートに移って3人で共同生活となりました。家事の分担などはなく、自分のことは自分でやっています。僕は毎晩簡単な鍋などを作って自炊していますが、彼らはコンビニだよりの生活です。現在150人余りのインドネシア人が東北大学にいて、ネットワークが確立していますが、イスラム教徒ではない僕は、彼らと少し離れた位置にいる気がします。ちなみにインドネシア国民の8割以上がイスラム教徒です。

コロナが落ち着いてから、仙台市内の外国人が多く集まる店でアルバイトを2か月ほどしました。そこで色々な人と知り合いになりましたが、みなさん社会人でした。自分は学生の知り合いが少ないことに気付き、「これは良くない、希薄になっている学生同士の結びつ



TUFSAの仲間たちと

きを強めるようなことをしたい」と考えるようになりました。

—東北大学留学生協会(TUFSA\*)に関わるようになったのはいつからですか。

以前からTUFSAの存在は知っていましたが、活動がオンラインだったので入会はためらっていました。対面交流が可能になった昨年、入会しました。昨年の主な活動は日本人学生の力を借りながら実施した東北大学国際祭りでした。そして学生間の結束を深めたいと願っていた僕が、今年のTUFSA会長に立候補しました。現在(8月)のメンバーは25人ぐらいですが、10月の新学期になればさらに増えると期待しています。

\*1 TUFSAは東北大学で学ぶ留学生が1965年に設立した団体で、毎年春に主催する国際祭りをはじめ、充実した生活となるよう様々な活動をしています。

—今年の国際祭りがまもなく開催されますね。(3ページ目参照)

今年の国際祭りは10月8日(日)に開催します。The World on a Plateがテーマです。「食」は世界共通ですが、多様な文化の入口でもあります。東北大学で各国の味を楽しみながら、異文化体験してもらえたら嬉しいです。

実は昨年の国際祭りの実行委員を経験したTUFSAメンバーは2人だけなのでノウハウに乏しく、心細く感じていたのですが、IPLANET(日本人学生の留学生支援団体)が今年も実行委員として協力してくれることになりました。実行委員の意見交換のとき、最初のころは日本人から発言がなくて当惑しましたが、一人ずつ聞くと、しっかりした意見を出してくれてほっとしました。頼れる仲間ができて感謝しています。

開催まで準備することがたくさんありますが、当日来場してくださるみなさんが楽しめるよう頑張ります。

—今後の予定を教えてください。

TUFSAに関して言えば、国際祭りの後にハロウィンやポットラックパーティなどを開催します。今年の4月や6月に開催したイベントでは200人が参加したのもありました。秋には留学生がまた増えるので、我々学生の繋がりを深め、日本での生活を楽しみたいものです。そして来年の国際祭りは、以前のように5月開催を目指して準備していく予定です。

8月20日(日)、外国につながる小中学生とその保護者を対象に「夏休み教室」を開催し、親子合わせて30名が集まりました。

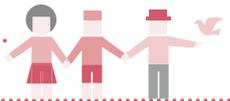
保護者向けには高校進学に関する情報提供のほか、先輩と先輩保護者の体験談、そして個別相談を行いました。インドネシア出身の母とその娘(高校生)が登壇し、漢字が得意な母のために中学校からのおたよりを娘が読んで、やさしいことばに言い換えて母に伝えていたといったエピソードが披露されました。その後の個別相談では、子どもの国語の成績を上げるためにどうすればいいか、小学校からの宿題が少なすぎる、日本の学校に通う子どもは日本語中心の生活のため日本語を母語としない親とのコミュニケーションがだんだん難しくなっているといった悩みに対し、県教育委員会や石巻市教育委員会の指導主事の先生方がアドバイスをを行いました。



一方、子どもの部屋では、前半はプリント学習、後半は科学あそびを行いました。石巻専修大学の学生ボランティア、国際サークル友好21や外国人の子ども・サポートの会のメンバーが子どもひとりひとりに寄り添い、楽しい時間を過ごしました。閉会后、自作したぶんぶんごまやスーパーボールを保護者に見せている子どものうれしげな笑顔が見られ、会場のあちこちで歓声が上がっていました。



## シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



### 第9回 白石市立白石中学校 MIA外国人児童生徒サポーター 鈴木 順子さん

#### 中学校における日本語指導

昨年6月末に本校にパキスタンから15歳と17歳の兄弟が転入してきました。日本語は全くできないということで、兄は中学3年生に弟は中学2年生に在籍をして学習を進めていくことになりました。私は日本語指導の経験はなかったので、文字通り手探りの状態でのスタートでした。

7月から私ともう一人のサポーターと2人で、夏休み明けには日本語指導の講師も加わり3人で指導していくことになったのですが、それぞれの勤務日が違うため、なかなか情報交換をする時間がとれずに苦慮しました。そこで指導日誌をつけて引き継ぎを行い、指導内容や課題について共有するように努めました。初期段階での指導では「取り出し指導」を中心に個別指導を行い、ひらがなやカタカナの練習と並行しながら、学校生活に必要な言葉を中心に学習を進めました。幸い母語とともに英語も若干分かったので、理解しづらい言葉や説明については翻訳機を使うことで効率的に指導を進めることができました。

2人とも非常に学習意欲が高く、熱心に取り組む姿に、指導者側も刺激を受けました。クラスの友だちと積極的に会話をする姿も見られ、先生方や私たち支援者も驚くほどでした。

夏休みが明けた頃には簡単な日常生活での日本語の理解ができるようになってきたので、英語や数学、理科、技能教科については学級での一斉指導の中で指導を進めて行くことになりました。

日本とは全く異なる宗教上の違いや文化の違いもあり、音楽やダンスなどの学習で参加できないというものについてはその都度、保護者や本人と確認をしながら指導を進めるようにしました。娯楽としてのダンスではなく学校の授業としてのダンスの勉強をする旨について粘り強く説明をして理解いただくように努力しました。それでも理解が得られない時には、CDをかける担当をやらせてもらう等、クラスでそれぞれ考えて彼らが参加できる方法を工夫しながら進めました。異文化交流は日本の子どもたちにとっても、私自身にとっても学びの多い機会になり、教えることの難しさを感じられた良い時間でもありました。

## 多文化 なトピック

### ご活用ください! 河北新報「みやぎ発 やさしいにほんご ニュース」

以前も倶楽部MIAでご紹介しましたが、河北新報ONLINE NEWSには、外国人や子ども向けに宮城や東北のニュースをわかりやすく伝える「みやぎ発 やさしいにほんごニュース」のページがあります。

監修はMIA地域日本語教育コーディネーター・MIA日本語講座講師の鈴木英子さんが担当していて、各ニュースに合わせて鈴木さんが作成したワークシートも掲載されています。

このワークシートは、地域の日本語教室での活用が想定されていて、学習者と支援者がそれぞれのニュースについて考えたり話したりする活動ができるよう工夫されています。

河北新報ONLINE NEWSの閲覧には登録が必要ですが、「みやぎ発 やさしいにほんごニュース」は登録なしで、しかも無料で利用可能です。ぜひ日本語学習支援活動にご活用いただくほか、お知り合いの外国人にもご紹介ください。



「みやぎ発  
やさしいにほんご  
ニュース」  
[https://kahoku.news/  
easyjapanese](https://kahoku.news/easyjapanese)

#### 【今年の6月から担当している河北新報社の神田さんがメッセージを寄せてくれました】

コーナー名の「やさしい」は「易しい」を意味しています。記事は初級の日本語学習者でも無理なく読めるよう、平易な日本語でつづられています。単語だけでなく記事の構成も見直し、ひたすら「読みやすさ」を追求した内容に仕上がっています。

もう一つ、「優しい」という意味も込めています。言葉が通じない国で過ごす外国人の皆さんは、どこか心細さのようなものを感じているのではないのでしょうか。そんな皆さんに優しく語りかけるような気持ちで発信することで、多文化共生社会の実現に貢献できたらいいなと思っています。「易しさ」「優しさ」を心に刻み、宮城発、東北発の面白いニュースをどんどん発信していきます。  
(河北新報社 編集局コンテンツセンター デスク 神田 一道さん)

## 多文化 なトピック

## お知らせ 第36回東北大学国際祭り

今年も東北大学留学生協会(TUFSA)が国際交流イベントを開催します。20か国の料理を味わいながら留学生たちと異文化交流してみませんか。

- 日時：10月8日(日) 11:00～16:30
- 場所：東北大学百周年記念会館(川内萩ホール)前
- エントリーパス(フードチケット3枚分)当日券1,500円

🔍 第36回 東北大学国際祭り



## 参加者募集! 多文化共生シンポジウムinおおさき

多文化共生をテーマとした宮城県主催のシンポジウムが、今年度は大崎市内で開催されます。

多くの定住外国人が暮らし、大規模な国際交流フェスティバルなどが開催されるなど、国際交流・多文化共生の取り組みが進められてきた大崎市。2025年4月に全国で2校目の公設日本語学校の開設を目指して準備が進められています。

今回のシンポジウムでは、大崎市が公設日本語学校のモデルケースとして参考にしてしている北海道東川町の事例に関する講演や、地元関係者によるパネルディスカッションなどが行われます。

全国的にも注目されている公設日本語学校設置の取り組みについて理解を深め、宮城における多文化共生の未来像について、いっしょに考えてみませんか。

- ◎日時 2023年11月19日(日) 14:00～
- ◎場所 大崎市役所301会議室(大崎市古川七日町1-1)
- ◎内容(予定) ・北海道上川郡東川町 元町長 松岡市郎 氏による基調講演  
・行政報告:公設日本語学校開設に向けた取り組み  
・市内在住関係者等によるパネルディスカッション

◎主催 宮城県、宮城県人権啓発活動ネットワーク協議会

◎共催 大崎市、宮城県国際化協会(MIA)

◎申込方法 電話・Eメールまたは二次元バーコード経由(みやぎ電子申請サービス)で申し込み。(電話・Eメールの場合は、参加人数、参加者全員の氏名、代表者の電話番号をお知らせください。)

●宮城県経済商工観光部国際政策課(022-211-2972 kokusaik@pref.miyagi.lg.jp)

※最新の情報は宮城県国際政策課またはMIAのウェブサイトでご確認ください。



## 🌳 バワニさんの町内会活動記 🏠

このコーナーでは、ネパール出身のバワニさんが日本の町内会活動の経験や感想について語ります。

## 第3回

## 「町内会の清掃活動」

ドゥワディ バワニさん

ネパール出身。2007年、夫、子ども2人とともに来日。仙台市在住。現在、みやぎ外国人相談センター相談員、MIA外国人支援通訳サポーターなどを務め、通訳、翻訳活動を行っている。



家族と一緒に通訳者として参加した進路ガイダンス

わたしが町内会の役員をやっていたのは2年前の令和3年度で、コロナ禍で多くの行事が中止となりましたが、7月の一斉清掃は例年通り行われました。

土曜日の朝6時半に20人以上が集まり、広瀬川の堤防周辺の草刈りと刈った草の片づけをしました。わたしに初めて会う方もいたはずですが、特に驚いたりするような方はおらず、自然にみんなで作業をしました。ネパールでも大きなお祭りのときに町内会のひとが集まって道路の清掃活動をしりましたので、ちょっと懐かしいような気がしました。

近くに住んでいながら、なかなか顔を合わせることもないので、お互いを知り合うとても貴重な機会になりました。茶話会(2022年6月号参照)で知り合った当時95歳、いまは97歳?のおじいさんとは会うたびにあいさつしますし、いろいろ声をかけていただきます。茶話会も一斉清掃もひととひとをつなぐ場になっているように思います。

いまは役員をしていますが、今年の7月も一斉清掃に参加しようと思って、冷蔵庫にメモまで貼って忘れないようにしていたのに…気づいたときには終了時間を過ぎていました。今回は、会長さんに「防災訓練やりませんか?」と提案してみるつもりだったのです。お年寄りが多い町内会なので、防災訓練を通じてひとりでも多くの方と知り合えたらいいなと思ったのです。来年の一斉清掃は必ず参加したいです!そして、中止になっていた行事もまたできるようになるといいですね。

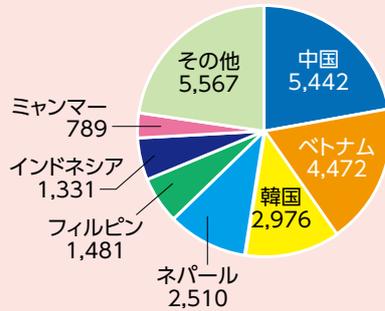
## 宮城県内の在留外国人の状況について

宮城県の在留外国人数は、2022年12月末現在で24,568人でした。これは過去最多の人数で、宮城県の人口の約1%にあたります。この数年はコロナウイルスの影響で減少傾向でしたが、3年ぶりに増加に転じました。

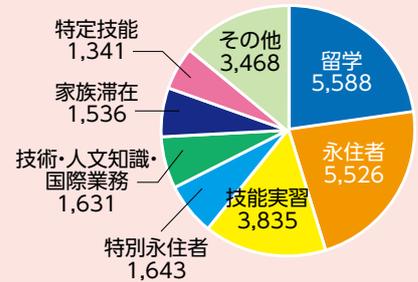
国籍別では、多い順に中国、ベトナム、韓国、ネパールと続いており、この4カ国が全体の半数以上を占めています。このうちネパールは前年より972人増えており、増加が特に顕著でした。また、インドネシア、パキスタン、バングラデシュ、スリランカといった国の増加も目立ちます。

在留資格別では、コロナウイルスによる入国規制が解除された影響もあり、永住者を抜いて留学が最も多い5,588人となりました。前年と比べて1,782人増えています。さらに特定技能(国内人材を確保することが困難な状況にある産業分野において、一定の専門性・技能を有する外国人に付与する在留資格)が1,341人と、前年の495人より大幅に増えていることも大きな特徴です。

国籍・地域別在留外国人人数



在留資格別



(数字はすべて2022年12月末現在、出入国在留管理庁在留外国人統計より)

### みやぎの国際活動団体

### 多賀城市国際交流協会 会長 佐藤美津子さん

多賀城市国際交流協会は、国際感覚豊かな市民の育成を図るとともに、外国の方にも住みよいまちづくりを実現するため各種交流活動を推進し、市民一人ひとりの国際交流に対する意識を図ることを目的として活動しています。

最近、ウクライナ人道支援募金やトルコ・シリア地震への募金活動を行うだけでなく、2024年に多賀城が創建1300年を迎えるにあたり、既に記念事業が種々開催されている中、当協会も協力や支援をしています。

他には、多賀城市が力を入れている6月の「あやめまつり」では、多賀城創建以来、当市と韓国が歴史的なつながりを持つことから、当協会は「韓国フェア」と銘打ち、民団の青年部による「太鼓の演奏」を披露し、「キムチ3種」を販売しました。

これから10月には「万葉まつり」、その後は「国際交流まつり」があります。昨年はウクライナ、内モンゴル、ミャンマーの方々に出演していただき、歌と踊りで会場の皆さんと交流し大いに盛り上がりました。今年の国際交流まつりも期待していただきたいと思います。

外国の皆さんとこれらの交流を通して、お互いの文化等を理解しあえたらと思います。そして、これからも「草の根的な活動」で会員一同頑張っていきます。



国際交流まつりにて

## サポーターの声

### 外国人児童生徒サポーター 高橋浩さん

栗原市の中学校に在籍しているパキスタン人生徒の支援を行っています。サポーターとしての活動は初めてで、日本語が全くできない生徒に対し、なにをどのように支援をしていけばいいのか、手探りでしたし、最初のころはわたしも生徒も緊張をしていたと思います。

打ち解けた雰囲気を作りたくて、絵カードや道具など五感に訴えるものをいろいろと試しました。縄跳びも取り入れました。これは数を数える練習のためです。縄跳びをやったことがないようで最初のころはほとんどできなかったのですが、2か月後には49回跳べるようになり、数も100まで数えられるようになりました。郷土かるたも喜びました。ひらがなの字を覚え、読み札の音を聞く練習です。わたしよりたくさんとったときなどうれしそうにしていました。

半年ほど支援してきて、ものの名前や教科名など単語レベルではわかることが増えました。次は文が言える、分かるようになることかなと思っています。

食事やお祈りなどイスラム教徒として実践している生徒から学ぶことも多く、自分自身の視野が広がったと感じています。

### 賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格  
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただく個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費  
個人会員/1口 3,000円  
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典  
◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙 倶楽部MIAの定期送付(年6回)
- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引 宮交観光サービス(株)
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法  
◎本協会あて御連絡ください。  
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 **MIA** vol.129

編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通宮宮町4番17号  
宮城県仙台合同庁舎7階  
TEL 022(275)3796  
FAX 022(272)5063

E-mail [mail@mia-miyagi.jp](mailto:mail@mia-miyagi.jp) URL <https://mia-miyagi.jp>

